

# 会 議 録

会 議 名	平成 25 年度山陽小野田市障害福祉計画検討委員会
開 催 日 時	平成 26 年 3 月 26 日（水）午後 3 時 30 分～午後 4 時 40 分
開 催 場 所	山陽小野田市役所 本庁舎 3 階 大会議室
出 席 者	<p>山陽小野田市社会福祉事業団 植木 亨</p> <p>山陽小野田市地域包括支援センター運営協議会 上村篤子</p> <p>小野田ボランティア連絡協議会 尾崎燎子</p> <p>山陽小野田市民生児童委員協議会 河口軍紀</p> <p>山陽小野田精神保健家族会 黒瀬桂子</p> <p>山陽小野田市障害者協議会 佐々木勇蔵</p> <p>民間福祉従事者 社会福祉法人神原苑 澤村知美</p> <p>山陽小野田市社会福祉協議会 硯谷かやの</p> <p>一般公募 西廣美智子</p> <p>山陽小野田市肢体不自由児（者）父母の会 古谷礼子</p> <p>小野田市医師会 松岡 彰</p> <p>山陽ボランティア連絡協議会 水田愛子</p>
欠 席 者	<p>一般公募 上野恵一</p> <p>厚狭郡医師会 民谷正彰</p> <p>障害者就業・生活支援センター 西村満宏</p> <p>NPO 法人山陽小野田市手をつなぐ育成会 矢田英治</p> <p>山陽小野田市教育委員会 藤本哲城</p> <p>宇部公共職業安定所 矢玉俊治</p>
事務担当課 及 び 職 員	<p>健康福祉部次長 兼 高齢障害課長 岩崎秀司</p> <p>高齢障害課障害福祉係長 縄田 誠</p> <p>高齢障害課障害福祉係 末永久美</p> <p>高齢障害課障害福祉係 伊勢克敏</p>
会 議 次 第	<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 議事 (1)市内の障がい者の現状</p> <p>(2)第 2 期計画の実績と第 3 期計画の進捗状況について</p> <p>(3)障がい者を取り巻く環境の変化</p> <p>(4)平成 2 5 年度主な事業の実施状況</p>

	(5)今後の重点事業及び課題
議 事	<p>◆ 1 について 会長があいさつを行った。</p> <p>◆ 2 について 事務局が(1)の説明を行った。</p> <p>◆質疑応答は次のとおり。</p> <p>委員：身体障害者手帳所持者数で、平成 2 5 年度 2, 8 1 3 名とあるが男女比率は把握しているのか。</p> <p>事務局：現在、男女比率の数値は把握していない。</p> <p>委員：②の平成 2 5 年度年齢別身体障害者手帳所持者数の合計欄の数値が、年齢ごとの計を足した数値と合わないが。①の身体障害者所持者数と③の等級別身体障害者所持者数との整合性が取れてない。</p> <p>事務局：資料を精査する。</p> <p>◆ 2 について 事務局が(2)の説明を行った。</p> <p>◆質疑応答はなし。</p> <p>◆ 2 について 事務局が(3)の説明を行った。</p> <p>◆質疑応答はなし。</p> <p>◆ 2 について 事務局が(4)の説明を行った。</p> <p>◆質疑応答は次のとおり。</p> <p>委員：小野田神原苑の場所はどこにあるのか。</p> <p>委員：神原苑は宇部市に元々特別養護老人ホームがあり、そちらが母体になっている。平成 2 3 年 3 月から場所は有帆川沿いの横土手で事業を始め、正式名称は社会福祉法人神原苑小野田障害デイサービスセンターである。</p> <p>会長：ぶれジョブとはどういうものか。</p> <p>事務局：小学生から中学生までが対象で、地域で支えていくことを目的に、職場体験を行っている。宇部市で定例会が行われているが、山陽小野田市内の方も参加されている。昨年 1 2 月から一人山陽小野田市役所でぶれジョブを体験されている方がいる。</p> <p>委員：厚狭地域特別支援教育専門家チーム連絡協議会で問題解決に向けた協議を行うとあるが、出席者の中に障がいを持った保護者の方は参加しているのか。</p>

	<p><b>事務局：</b>関係機関の方のみであり、保護者の方は参加していない。</p> <p><b>委員：</b>総合支援学校の保護者の方から聞いた話だが、教員免許のない一般の方が学校で支援をしているということはあるのか。</p> <p><b>事務局：</b>学校での支援のことについては教育委員会に確認をする。</p> <p><b>委員：</b>ぷれジョブを受け入れる事業主の規定はあるのか。それはどこに聞いたらいいのか。</p> <p><b>事務局：</b>現在の受け入れ先は、市役所、図書館、スーパー、衣料品店などである。特に規定はなく、子どもを受け入れる体制があれば利用は可能であると思う。</p> <p><b>委員：</b>ぷれジョブ定例会というのはぷれジョブの発表会である。ぷれジョブ自体は、対象の児童が1回1時間程度ボランティアのサポーターの方といっしょに希望する場で職場体験されることである。会の中で職場を紹介してもらったり、サポーターは期限が半年なので次のサポーターの方を探したりされている。</p> <p>◆ 2 について 事務局が(5)の説明を行った。</p> <p>◆ 質疑応答はなし。</p> <p>高齢障害課長があいさつの後、閉会。</p>
--	---